

Accounting SQUARE

監査法人からの ASBJ に対する期待～コロナ禍の経験を踏まえ～

有限責任 あずさ監査法人
理事長

たかなみ ひろゆき
高波 博之



1 はじめに

2020年初旬から、新型コロナウイルス感染症の影響が深刻になっていき、2020年3月期の財務諸表監査は、通常とは大きく異なる環境下の中で行われました。その中で、私自身、監査法人の存在意義や関係者が連携して取り組むことの重要性を再認識させられました。また、昨年7月以降、私は財務会計基準機構(FASF)の運営に評議員という立場で関与しています。

これらの経験を踏まえ、2020年3月期の財務諸表監査を振り返るとともに、これからの大手監査法人の使命や企業会計基準委員会(ASBJ)に対する期待について申し述べます。

2 2020年3月期の会計監査で得られた教訓

(1) 2020年3月期の会計監査の振り返り

新型コロナウイルス感染症の影響は、殆どの方にとって当初の予想を遥かに上回るものではないかと思えます。本稿執筆時点においても、予想を上回る勢いで感染者数が再び増加傾向に

転じており、行動様式や企業活動のあり方が改めて議論になっています。

私も、中国でこの感染症が発生したという報道を聞いた当初は、まさか、この感染症が、個人の行動様式や企業業績にここまで大きな影響を与えるものだと考えていませんでした。しかし、本年初旬以降、国内外において事態が刻一刻と変化する中で深刻さに気づかされ、当監査法人も、災害対策本部を立ち上げ、私自身が本部長になり、陣頭指揮を執りました。

特に、3月下旬から多くの国で都市封鎖が矢継ぎ早に実施され、我が国でも、4月7日に7都道府県を対象にして緊急事態宣言が発令され、16日に対象が全国に拡大される中で、3月決算の監査において非常に厳しい対応を迫られました。本稿執筆時点では、3月決算監査を何とか大過なく終えられたことに少し安堵しているところですが、3月から5月にかけては以下のような課題が次々に突き付けられました。

- 在宅勤務を前提とすると、特に海外拠点を有する大手企業のグループ監査の実施にあたって主要な拠点で現地棚卸の立会等の重要な監査手続が適時に実施できず、想定したスケジュールで監査が終わらないのではないかと
- 監査において重要とされている(残高)確認

手続について、確認先の企業等における出勤状況等に応じて、確認先からの返信が適時に入手できないのではないかと

- 新型コロナウイルス感染症の広がりや収束時期が明らかでない中で、減損損失の計上の要否の検討にあたって必要となる会計上の見積りにおける不確実性が従来にない程高まり、会計上の見積りについてどのような検証を行えば監査意見を表明できるのか

こうした共通に生じる問題に対応するため、極めて異例のことではありますが、大手監査法人の理事長と日本公認会計士協会（JICPA）の会長が2カ月弱の期間にわたり、毎日のように電話会議を行い、対応について協議しました。また、これらの議論を踏まえ、大手10の監査法人から連名で2つの声明文を公表し、有価証券報告書の提出期限の延期や定時株主総会の弾力的な運営について提言を行いました。その後、金融庁が主導して設置された「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた企業決算・監査等への対応に係る連絡協議会」における議論等を通じて、我々の提言も取り上げられ、金融庁、法務省をはじめとする関係者により、緊急の対応をしていただきました。さらに、ASBJからも、会計上の見積りに関する考え方や関連する開示について、2回にわたって議事概要を公表いただきました。関係者による一連の対応について、改めて、厚く御礼申し上げます。

(2) 当監査法人の対応と得られた気付き

当監査法人は、2020年3月期監査における新型コロナウイルス感染症への対応にあたって、特に以下の3つの責務を果たしていく必要があると考えました。

- ① 従業員や関係者が感染リスクに脅かされることのないよう、生命・安全の確保する措置を講ずること
- ② 社会の一員として、政府／金融庁からの出

勤者の7割削減の要請に応えるとともに、感染拡大の防止に向けてそれを上回る対応（具体的には、出勤者の8割削減）をすること

- ③ こうした危機的な環境下でも、社会の公器である資本市場の機能が有効に機能するよう、資本市場の運営にあたって不可欠である「信頼しうる財務情報」の提供に向けて、監査人としての職責を全うすること

このうち、③について、私は、以前から「マーケットを護ることが監査人の職責である」と定義付けており、当監査法人の構成員に向けて「マーケットを護ることこそが我々監査法人の使命だ」ということを繰り返し伝えていきます。特に大手監査法人は、我が国の資本市場に上場する企業のうち4分の1に及ぶ高い割合で財務情報の信頼性について意見を表明するという重い責任を有しています。このような認識の下、我々は、財務諸表監査という公的な性格を有する業務に日々向き合っていますが、今回の議論を通じて、我々の努力だけではこの使命を果たすことは到底できず、関係者から適切な協力が得られるよう、緊密に情報／意見交換していくことが極めて重要だということを再認識させられました。

具体的には、金融庁や法務省による対応がなければ、我々も時間的な制約に縛られることなく監査業務を続けることはできなかったですし、ASBJによる議事概要で示された指針がなければ、「不確実性が極めて高い中で、会計上の見積りの合理性を評価する」という困難な課題に対応できなかったと思います。こうした経験を通じて、私は、「マーケットを護るという我々の使命を達成するには、関係者が連携して対応することが不可欠」であり、「日本の会計基準を開発する役割を有するASBJと我々監査法人はまさにsame boatに乗っている」ということを再認識させられました。

3 FASB/ASBJに期待する役割

ここまで、2020年3月期の会計監査で得られた教訓について述べさせていただきましたが、評議員としての活動を通じて、私は、FASB/ASBJは「マーケットを護る」ために多くの重要な役割を有していることを認識しています。以下において、主なテーマに関する私の認識を記載します。

(1) 日本の会計基準の開発

第一に、日本の会計基準の開発です。会計基準は、企業の業績を測る「モノサシ」であり、これがしっかりしていないと、財務諸表利用者は企業の業績を正しく理解することが出来ません。また、企業活動や資本市場のグローバル化を踏まえると、「モノサシ」が国際的に整合的なものになっていなければ、日本企業の業績が正しく理解されず、結果として、高い資本コストを払わざるを得なくなってしまいます。

こうした点を踏まえると、日本の法規制やビジネス慣行を踏まえつつも、国際的に整合的な「モノサシ」になるよう、会計基準の整備を続けていくことに向けた不断の取組みが極めて重要です。ASBJは、最近、収益認識に関する会計基準の開発を終えています。リース会計や金融商品会計といった重要な会計基準の開発に引き続き取り組んでいます。また、最近、財務諸表利用者から、「一層の説明」が求められるようになってきていることを踏まえると、従来のように会計処理を整合的なものとする取組みだけでは不十分であり、会計処理を説明するための注記事項をも国際的に整合的なものにしていくための取組みが重要になってきています。

ASBJには、こうした観点から、国際的に整合的で、財務諸表利用者・作成者・監査人といった実務担当者にとって理解が容易な会計基

準の開発を続けていっていただきたいと思えます。

(2) 国際的な意見発信

二つ目が、国際的な意見発信です。最近、IFRS適用会社数が益々増えており、最近の統計では、市場時価総額ベースではIFRS適用会社の割合が4割を超える程になっているようです。こうした中では、IFRSは、「第2の日本基準」ともいえるような存在になりつつあります。他方で、IFRSは国際的に様々なステークホルダーから意見を得つつ開発されていくため、日本の関係者の意見を基準開発プロセスに反映させることは容易ではありません。

IASBでは、リース会計や金融商品会計といった大型のプロジェクトは終えているものの、引き続き、財務諸表の表示に関する基準開発プロジェクトやのれんの会計処理に関するリサーチプロジェクトという、日本の関係者も高い関心を有するプロジェクトが進められています。このため、日本におけるIFRS適用企業やその後における日本の会計基準への影響を踏まえ、特に重要なテーマについて、ASBJがIFRSの開発プロセスへの意見発信について引き続き主導的な役割を果たしていくことを期待します。

(3) その他

三つ目が、非財務情報に関する対応です。FASB/ASBJは、主として財務諸表の作成基準である会計基準について責務を負っていますが、最近、国内外において非財務情報の重要性が高まっています。これは、長期的な投資を行っていくためには、将来の業績について適切に予測することが重要であり、そのためには、企業の価値創造プロセス、企業が直面している事業等のリスク、及び企業が予定しているリスクへの対応について適切に理解することが不可

欠であるからだと思います。とりわけ、最近、財務諸表利用者からは、短期的に見えるリスクだけでなく、気候変動や環境変化といった長期のリスクとそれへの対応についても一層の説明が求められるようになってきました。また、これに対して、我々監査人への期待が高まっていることも認識しています。

こうした中で、FASF/ASBJとしても、非財務情報についてどのような対応をしていくべきかについて、リソースも踏まえつつ、優先順位付けについて戦略的な議論を行っていくことを期待します。

4 おわりに

以上、新型コロナウイルス感染症への対応や評議員としての関与を通じて、私が感じていることについて述べさせていただきました。繰り返しになりますが、私は、我々監査法人とASBJは「マーケットを護る」という点で共通の使命を帯びていると強く信じています。こうした観点から、私は、ASBJがその使命を果たすための取組みに大いに期待しており、活動を支援していきたいと考えています。